

# 令和4年度 第1回佐賀県立牛津高等学校魅力強化委員会

日時：令和4年6月29日（水）17：00～

場所：佐賀県立牛津高等学校 会議室

## 会次第

- 1 開会
- 2 学校長挨拶
- 3 教育委員会挨拶
- 4 任命状交付
- 5 協議
  - (1) 会長及び副会長の選出について
  - (2) 牛津高等学校魅力強化委員会（学校運営協議会）について
  - (3) 学校評価計画について
  - (4) SAGA コラボレーション・スクール事業計画について
  - (5) その他
- 6 閉会

# 目次

○参加者一覧	2 ページ
○協議	3 ページ
・会長及び副会長の選出について	
・学校運営協議会について	
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について	4 ページ
牛津高等学校魅力強化委員会（学校運営協議会）部会について	5 ページ
・学校評価について	7 ページ
・SAGA コラボレーション・スクールについて	
SAGA コラボレーション・スクール（SCS）について	9 ページ
SCS 本校の事業計画について	10 ページ

第1回 佐賀県立牛津高等学校魅力強化委員会 参加者

委員9名（欠席1名）

氏名	所属等	備考
長戸 和光	佐賀駅前法律事務所／牛津ロータリークラブ	
古川 久美子	株式会社 城島旗染工	
高元 宗一郎	西九州大学短期大学部	
横尾 敏史	株式会社佐賀銀行／ オプティム・バンクテクノロジーズ株式会社	
山田 美穂	本校PTA会長	
中尾 政幸	小城市副市長	
金森 星奈	児童養護施設 聖華園	本日欠席
東島 杏香	鳥栖工業高等学校	
滝 崇磨	西九州大学（学生）	
江頭 かおり	本校校長	

県教育委員会3名

上赤 真澄	佐賀県教育委員会教育振興課 課長	
細國 真紀	佐賀県教育委員会教育振興課 指導主事	
門脇 享平	佐賀県教育委員会 高校魅力化アドバイザー	

事務局3名

北村 昭彦	本校教頭	
石橋 邦広	本校統括事務長	
平方 伸之	本校主幹教諭	

# 協議資料

## コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

### 1. 設置の目的

地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む、地域とともにある学校づくりをしていくため、地域や学校の実情に応じて学校の運営に関して協議する協議会を設置する。

### 2. コミュニティ・スクール導入のメリット

- ✓ 地域の資源や人材を活かした魅力ある高校づくり  
保護者、地域住民等の学校運営への参画や地域との連携・協働を促進することで、学校運営の改善につながり、学校の魅力づくりにつなげることができる。
- ✓ 地域を担う人材の育成  
地域の課題解決など地域活性化への取組や、地域ならではの資源や人材を活用することにより、地域を愛する心を育み、生徒、児童の主体性・協働性などの力を伸ばすことができる。

### 3. 学校運営協議会での協議の内容

- ✓ 育みたい地域の担い手の姿や目指す学校の姿等に関する学校運営のビジョン（学校運営の基本方針）を共有し、校長は協議会の委員の意向や意見をこの基本方針に反映させる。
- ✓ 学校の運営全般について、県教育委員会又は校長に対して主体的に意見を申し出ることができる。
- ✓ 学校の課題解決や教育活動の充実のために校内体制の整備充実を図る観点から、教職員の任用に関する事項について、直接、任命権者に対して意見を述べることができる。ただし、特定の個人の採用に関するものは対象から除外される。

## 牛津高等学校魅力強化委員会（学校運営協議会）部会について

1. 佐賀県立牛津高等学校運営協議会（学校魅力強化委員会）規約第8条  
第8条 委員会 は、学校における教育活動の改善及び充実を図るため、次の各号に掲げる部会を置く。
  - (1) 地域連携部会
  - (2) 魅力発信部会
  - (3) 学校評価部会
  - 2 各部会に属する委員は、委員会 の会長が指名する。
  - 3 各部会は、会長が指名した委員のほか、学校の教職員及び委員以外の者を構成員とすることができる。
  - 4 部会に部会長及び副部会長を置き、委員の互選により選出する。
  - 5 部会長が会議を招集し、議事をつかさどる。
  
2. 各部会について  
それぞれの部会は以下のような議論を行うことを想定しています。また、年に2～3回の会合を開催する予定です。さらに、部会については、本委員会の委員以外の出席者にも参加を求めることがあります。
  - (1) 地域連携部会（9月、11月又は12月の2回の部会開催を計画）  
地域などとの協働活動を行う際に、本校の活動を地域に、地域の要望等を本校行事に組み込むなどのことが必要となる。このような活動についての有効な手法等を議論し、提言・助言する部会。
  - (2) 魅力発信部会（8月、10月又は11月の2回の部会開催を計画）  
本校の魅力を発信するための手法等について議論する部会。地域の魅力を発信ことも想定。今後採用予定の学校魅力化コーディネーター（後述）とも連携しながら、効果的な広報の手法について検討し、実践のための提言等を行う。また、本部会の委員は、来年度創立60周年記念を機に計画している制服の新調についての検討委員も兼ねる。
  - (3) 学校評価部会（7月、10月又は11月、1月又は2月の3回の部会開催を計画）  
学校評価計画の編成及び中間評価、最終評価など、学校の目標設定や評価について議論し、提言を行う部会。また、本部会の委員は、教科書の選定委員も兼ねる。

以上の3部会について、委員の方々は最低一つの部会に所属していただくことを願います。

なお、所属される部会以外の部会についても、御都合がつく場合にはぜひ参加していただきますようお願いいたします。

佐賀県立牛津高等学校魅力強化委員会 部会委員

		会長	副会長	氏名	所属等	部会等		
						地域連携	魅力発信*1	学校評価*2
1	委員	○		長戸 和光	佐賀駅前法律事務所/ 牛津ロータリークラブ		◎	
2	委員			古川久美子	株式会社 城島旗染工	◎		
3	委員		○	高元宗一郎	西九州大学短期大学部			◎
4	委員			横尾 敏史	株式会社佐賀銀行/オプティム・ バンクテクノロジーズ株式会社			○
5	委員			山田 美穂	本校PTA会長		○	
6	委員			中尾 政幸	小城市副市長	○		
7	委員			金森 星奈	児童養護施設 聖華園			○
8	委員			東島 杏香	鳥栖工業高等学校		○	
9	委員			滝 崇麿	西九州大学(学生)	○		
10	委員			江頭かおり	本校校長	○	○	○

\* 1 魅力発信部会委員は制服検討委員を兼務する

\* 2 学校評価部会委員は教科書選定委員を兼務する

## 学校評価計画について

### 1. 学校評価の概要

「学力の向上」、「心の教育」、「健康・体づくり」、「業務改善・教職員の働き方改革の推進」、「唯一無二の誇り高き学校づくり」を評価項目とし、県が指定した取組内容や学校独自の取組内容をもとに、5月までに成果指標、具体的取組を策定する。2学期に中間評価を行い、3学期に最終評価を行う。5月の計画の策定と3学期の最終評価の後に、学校ホームページ等を用いて公開することが原則となっている。

### 2. 現状と課題（学校要覧より）

(ア)本校では、基礎的な学力の向上に取り組んでおり、日々の授業だけでなく朝学習なども意欲的に取り組んでいる。そのような中であっても、基礎学力等に課題を持つ生徒や家庭学習の時間について学年が進むごとに減少する生徒は一定数おり、今後も学校全体で基礎学力の大切さを意識させる取組を継続する必要がある。

(イ)家庭科単独の専門高校として、各学科の課題を明確にしたうえで、地域や関係機関等との連携のもと、生活産業等に対するニーズの把握など、社会の変化に対応した学科のあり方について再検討を行い、生活産業を担うスペシャリスト育成のため必要に応じて改善を図る必要がある。

(ウ)本校では、教員による教育活動や生徒の学習活動、ボランティア活動をはじめとする地域との協働活動などを精力的に行い、魅力ある教育プログラムを実践しているが、残念ながら志願倍率が1倍を割り込む状態が続いている。進路についても十分満足いくものになっていると思われるものの、受検を考えている中学生に訴えかけるまでには至っていない。本校の魅力を中学生に知ってもらう手立てについて、研究、実践が急務である。

### 3. 学校教育目標（5月更新）

変化の激しい時代にあっても常に志を強く持ち、知性と慈愛をもって人々の暮らしに安心と豊かさを提供し、よりよい未来を創造できる人材を育成する。

また、住民との協働により、地域をデザインし地域に活力をもたらす存在として、心身ともに健全で調和のとれたチャレンジ精神あふれる人材を育成する。

### 4. 今年度の重点目標

・生徒の基礎学力や専門的な知識・技術を確実に定着させる取組を継続し、進路実現につなげる。

・ボランティア活動や地域との協働などを通して、生徒の主体性や積極性を高め、思いやりの心を育む取組を充実させる。

・学校魅力強化委員会（学校運営協議会）を活用し、地域に開かれた魅力ある学校づくりを推し進め、選ばれる学校を目指す。

【高等学校用】

令和4年度学校評価計画

学校名	佐賀県立牛津高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力向上」・「心の教育」・「健康・体づくり」については、おおむね目標を達成することができた。</li> <li>・「業務改善・教職員の働き方改革」については、時間外勤務時間の平均が前年度より増加するなど、課題が残っている。</li> <li>・「魅力ある学校づくり」については、残念ながら志願倍率が1倍を割り込み、課題として残った。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>変化の激しい時代にあっても常に志を強く持ち、知性と慈愛をもって人々の暮らしに安心と豊かさを提供し、よりよい未来を創造できる人材を育成する。</p> <p>また、住民との協働により、地域をデザインし地域に活力をもたらす存在として、心身ともに健全で調和のとれたチャレンジ精神あふれる人材を育成する。</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の基礎学力や専門的な知識・技術を確実に定着させる取組を継続し、進路実現につなげる。</li> <li>・ボランティア活動や地域との協働などを通して、生徒の主体性や積極性を高め、思いやりの心を育む取組を充実させる。</li> <li>・学校魅力強化委員会（学校運営協議会）を活用し、地域に開かれた魅力ある学校づくりを推し進め、選ばれる学校を目指す。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○共通教科の基礎学力の向上	○基礎力診断テストの成績でD1以上の生徒の割合を80%以上にする。	・基礎学力の定着と向上に向け、授業の工夫・改善を図るとともに、適切な課題の出し方について、教科内で共通理解を図り、実践する。
	○★専門的学習の基礎・基本の定着	○★家庭科技術検定の合格率100%とし、基礎・基本の定着を図る。	・指導方法や教材についての研究を行うと共に生徒個々の到達度に応じた指導を行い、技術の到達度を評価する実技テストを実施する。
	○★起業家マインドの育成	○★主体的に資格や検定、コンテスト、ボランティア活動や地域との活動などチャレンジする生徒を70%以上にする。	・家庭に関する専門科目間及び他教科との連携をこれまで以上に取りながら、特に、「生活産業基礎」I・IIの指導内容を充実し、効果的に実施する。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○倫理観や正義感などに関連する講演会を年4回以上開催する。	・性に関する講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にすることを育成する。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見に積極的に取り組んでいると感じている生徒・保護者の割合が75%以上 ○いじめの解消率100%	・学校生活アンケート(年2回)を実施するとともに、日頃から生徒の観察や面談等によるきめ細かな対応を徹底する。 ・問題が発生した場合は、迅速に会議を開き、組織的な対応を図る。
	◎★志を高め、思いやりの心を持った他人のために働くことのできる生徒の育成	○★ボランティア活動や地域との活動など協働活動に参加する生徒の割合を70%以上とする。	・地域の課題や身の回りの課題解決のために様々な人々と交流・協力し合い活動できる生徒を育てるボランティア活動の充実を図る
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上にする。 ○「健康に食事は大切である」と考える生徒を100%にする。	・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・食に関するアンケート調査を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。
	●安全に関する資質・能力の育成	○防災に対する意識が高まったと考える生徒の割合を80%以上にする。	・防災避難訓練を通して防災に対する意識の向上を図る。 ・防災に関するアンケート調査を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・部活動休業日を設定する。 ・年休・振休取得を奨励する。
	○教職員のスキルアップによる業務効率化	○オンライン授業、ライブ配信をするための機材設置、配線、配信を全ての教職員ができるようになる。	・機材設置、配線、配信についての研修会を開催する。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
★学校の魅力強化及び広報活動の充実	★習得した専門的知識や技術をふまえた希望進路の実現	★個に応じた進路希望の推進を行い、進路内定率100%を維持する。 ★教育系・食物・家政系等の大学・短大・専門学校進学を80%以上とする。	・四年制大学の受験希望者に対する早期受験対策を構築する。 ・進路希望企業の求人依頼や新規開拓を行う。 ・担任及び学科、就職支援員との密な情報交換を行う。
	★選ばれる学校に向けた広報活動の工夫	★高校進学説明会は県内5か所すべてに参加する。 ★本校生徒が参加する小中学校への出前授業に4回以上出向く。 ★学校ホームページの学校活動等に関連するものを1回以上更新する。	・説明会やウェビナーでは、生徒のアンケート調査などをと各科目の魅力や学校生活が具体的にイメージできる説明を行う。 ・生徒の活動等をこまめに記録し、ホームページ等で発信を行う。 ・魅力化推進コーディネータを活用する。
	★コミュニティ・スクールの効果的な運用	★学校運営協議会を年間4回以上開催する。 ★各委員の「積極的な学校運営への参画」に対する満足度を80%以上とする。	・学校運営協議会及び部会内での意見をもとに、学校魅力強化の活動につなげる。 ・委員による学校行事等への参加を積極的に推進し、学校を身近に感じてもらう。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

## SAGA コラボレーション・スクール (SCS) について

1. SAGA 唯一無二の学校魅力化実践事業  
唯一無二の誇り高い学校として県立高校の魅力を高め、県内外からの志願者を増加させるとともに、地域社会に貢献できる有為な人材の輩出を目指す。  
→ 目標：県外流出の歯止めと県内外からの県立高校志願者の増
2. SAGA コラボレーション・スクール (SCS) 指定校9校 (重点校4校)  
SAGA 唯一無二の学校魅力化実践事業の一環  
地域社会とコラボレートした学校運営を研究、実践
  - ・地域社会が教育目標や運営方針を承認 ← 本委員会
  - ・地域社会と協働し教育プログラムを企画・運営
  - ・学校の活動に地域住民やNPO、企業、大学が参加
  - ・社会に開かれた教育課程の研究と実践学校魅力化コーディネーターの配置 (重点校4校のみ)  
予算 (43万円) が配当される
3. 学校魅力化コーディネーター  
県予算で雇用 (月16日勤務の形態)  
学校の希望する業務で募集する
  - ・本校の希望業種…広報活動及び地域団体等との橋渡し現在県と提携している (一財) 地域・教育魅力化プラットフォームに募集を依頼
  - ・現在まだ希望者はない
  - ・7月23日 (土) に2回目の募集説明会
  - ・学校独自でも募集活動の必要
4. 申請時の本校の取組概要  
地域貢献活動を教育課程に位置付ける  
常設店舗等設置による商品や食事の提供  
地域と協働しながら、県外生徒募集の拡充を検討

## SCS 本校の事業計画について

### 1. これまでの活動

#### (1) 地域連携活動

多数の外部団体と連携して活動を行っている。大まかに分けると3つに分類される。

- ・課題研究（3年時に行う必履修の科目）…班ごとに分かれた活動
- ・起業家入門Ⅱ（3年時に行う希望性の科目）…班ごとに分かれた活動
- ・家庭クラブ（全員加入）…役員を中心としたボランティア活動
- ・その他…外部からの依頼が舞い込んだ時に、希望者を募って活動

#### (2) 魅力発信活動

ホームページへイベントごとにこまめにアップ  
体験入学や学校見学など（学校に来てもらうもの）  
高校説明会など（こちらから出向くもの）

### 2. 今年度の活動計画

#### (1) 地域連携活動

これまでの活動を継続

- ・+U×U（プラスUカケルU）プロジェクトとして再整理  
新型コロナウイルス感染症の影響でできなかったことを新規・再開検討
- ・外部との協働後の商品開発や販売
- ・（短期間の）牛津高校独自のお店出店

#### (2) 魅力発信活動

YouTubeなど他のメディアにも挑戦し、効果を検証  
魅力化コーディネーターを活用し、効果的な広報の手法を検証  
中学校教員対象の学校見学会の開催  
県外（通学1時間圏を想定）への学校説明会

### 3. 活動に際しての課題

#### (1) 人的問題…マンパワーの限界

- ・販売などを行う場合、ある程度のロット数をつくる必要性  
→授業等の一環として行うために限界
- ・魅力化コーディネーターの赴任時期

#### (2) 予算的問題

- ・予算不足…活動を活発にするには予算が全く足りない
- ・予算の費目…生徒を外部で活動させるための費目が準備されていない

## 事業実施計画書

学校名 佐賀県立牛津高等学校

## 【SAGA コラボレーション・スクール（SCS）】

## 1 取組テーマ

地域に開かれた、愛される学校づくりプロジェクト

## 2 現在の学校としての課題及び事業目標

## &lt;学校としての課題&gt;

本校は、家庭科の専門高校というユニークな存在として特色ある教育活動を展開しており、特に地域との協働活動については県内外から多大な評価をいただいている。しかしながら、この数年間の本校受検者は募集定員に満たない状況であり、学校の魅力づくりやその発信方法等について、改めて検証し、改善の手立てを早急に講じる必要がある。

また、全国各地で地域活性の取組が進む中、本校の役割として、住民と共に「地域の課題を発見し、解決していくプロセスを考え、実行していくこと」がこれまで以上に重要となっている。

## &lt;目標&gt;

- 地域などとの協働活動である本校の『+U×U（プラスUカケルU）プロジェクト』を通して、生徒の主体性などの資質・能力をさらに伸ばすとともに、地域をデザインし地域に新たな活力をもたらす存在としての高校を目指す。
- 広報活動を通して、学校のみならず地域の魅力も合わせて発信し、中学生を中心とする若年層及び地域からの牛津高等学校に対する知名度及び好感度を伸ばす。

## 3 令和4年度の実施計画

別紙のとおり

## 4 所要経費（計画）

様式1のとおり

## 5 校内担当者

主任等	職名	氏名	校務分掌	メールアドレス
	教頭	北村 昭彦	---	kitamura-akihiko@pref.saga.lg.jp
○	主幹教諭	平方 伸之	---	hirakata-nobuyuki-a@education.saga.jp
	指導教諭	永益 和弘	教務	nagamasu-kazuhiro@education.saga.jp
	教諭	峯 裕子	家庭	mine-yuko@education.saga.jp
	主事	松本 桃子	事務	matsumoto-momoko@pref.saga.lg.jp

※&lt;主任等の欄&gt; プロジェクト主任○、副主任△

(校舎制の学校についてはプロジェクト主任がいない校舎に副主任を置くこと)

※事務職員（予算担当）を1名含めること

(様式1)

学校名	佐賀県立牛津高等学校
-----	------------

## 令和4年度 SAGAコラボレーション・スクール(SCS) 所要経費 (計画)

経費区分	摘要	積算内訳						備考						
1. 報償費	委員謝金	@	9,600	円	×	8	人	×	1	回	=	76,800	円	①
	研修会講師謝金	@	6,000	円	×	1	人	×	2	h	=	12,000	円	②
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
88,800	円													
89	(千円)													
2. 費用弁償	委員旅費	@	2,000	円	×	8	人	×	5	回	=	80,000	円	①
	講師旅費	@	2,300	円	×	1	人	×	1	回	=	2,300	円	②
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
82,300	円													
83	(千円)													
3. 職員旅費	委員旅費	@	1,400	円	×	1	人	×	5	回	=	7,000	円	①
	学校開放時の県内教員旅費	@	2,300	円	×	20	人	×	1	回	=	46,000	円	④
	県外学校への説明会旅費	@	4,400	円	×	2	人	×	4	回	=	35,200	円	④
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
88,200	円													
89	(千円)													
4. 需用費その他	体験入学のための材料費	@	20,000	円	×	3	科	×	1	回	=	60,000	円	④
	地域ボランティア等のための材料費	@	20,000	円	×	1	式	×	4	回	=	80,000	円	③
		@		円	×			セット	×		=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
140,000	円													
140	(千円)													
5. 使用料及び賃借料	ジャンボタクシー	@	10,000	円	×	1	往復	×	2	回	=	20,000	円	③
	イベント出店の賃料	@	20,000	円	×	1	施設	×	1	回	=	20,000	円	③
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
		@		円	×			×			=	0	円	
40,000	円													
40	(千円)													
合計			439,300	円								441	(千円)	

## 【取組項目】(経費使途)

①	学校魅力強化委員会
②	学校魅力強化に係る講演会
③	地域連携に係る活動
④	広報活動に係る活動
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	

※備考欄には【取組項目】の番号を記すこと

※積算内訳の数値を入力する箇所は空欄にせず、入力値がない場合は1を入れること(計算式の都合上)

(別紙) 佐賀県立牛津高等学校 令和4年度 SAGAコラボレーション・スクール事業に係る年間事業計画

月		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事				体験入学		体育祭	文化祭	ファッションショー	課題研究発表会		卒業式
連携機関	魅力強化委員会及び部会主体	第1回	学校評価部会	魅力発信部会	地域連携部会	学校評価部会	第2回地域連携部会	魅力発信部会	学校評価部会	第3回	
	分類										
学校独自	+U	家庭クラブ			施設訪問			全校校内一斉美化作業			
夢つむぎネットワーク	+U×U	家庭クラブ 課題研究	牛尾山環境整備ボランティア	梅の商品開発等		牛尾山環境整備ボランティア				牛尾山環境整備ボランティア	
津の里ミュージアム事務局	+U	課題研究		津の里ミュージアム		津の里ミュージアム					
小城市	+U×U	課題研究 起業家入門		市報へのレシピ提供		市報へのレシピ提供		市報へのレシピ提供		市報へのレシピ提供	
			たなだ部		彼岸花イベント						
地域の小中学校	+U	課題研究		小学校への出前授業							
外部企業	×U	課題研究	サマーフェスタメ ニュー開発(ロイヤル チェスター)								
257(ニコナ)の会	+U	課題研究	ベビー服の作成								
カラフル(子ども食堂)	+U	授業	調理及び学習支援								
小城市社会福祉協議会牛津支所		家庭クラブ		ランチョンマットの配布				高齢者への季節だより			卒業式前美化作業
蛍光荘		家庭クラブ	お弁当掛け紙絵作成	お弁当掛け紙絵作成			お弁当掛け紙絵作成				お弁当掛け紙絵作成

※ 広報活動については、以下の項目を中心に研究、実践を行い、学校内外かかわらずこまめな情報発信を行う

- 中学校等へのこれまで以上の積極的な働きかけ
  - ・中学校職員対象の学校開放の開催(10月～12月の間で計画)
  - ・県外中学校(通学1時間圏内)への説明(8月～11月の間で計画)
- YouTubeなど新たな情報発信メディアの発信
  - ・コーディネータと連携したSNSの活用などの検討など
- 既存のメディアの効果的な活用、改善
  - ・コーディネータと連携したホームページの再設計
  - ・メディアごとのターゲットの設定